

第9章 道路工

9-1	路体・路床	
(1)	路体・路床工	9-1
(2)	路床安定処理工	9-1
9-2	舗装工	
(1)	路盤工	9-2
(2)	アスファルト舗装工	9-3
(3)	コンクリート舗装工	9-5
(4)	砂利舗装工	9-6
(5)	グースアスファルト舗装工	9-7
9-3	落石防護工	
(1)	落石防止網工	9-8
(2)	落石防護柵工	9-10
9-4	排水工	
(1)	L形側溝	9-11
(2)	暗渠排水工	9-11
(3)	橋梁排水管設置	9-12
(4)	自由勾配側溝	9-13
9-5	付帯施設工	
(1)	マンホール	9-14
(2)	防雪柵	9-15
(3)	ガードケーブル	9-16
(4)	ガードレール	9-17
(5)	ガードパイプ	9-18
(6)	横断・転落防止柵	9-19
(7)	標識板	9-20
(8)	区画線	9-22
(9)	境界ブロック	9-24
(10)	視線誘導標	9-25
9-6	PC橋架設工	
(1)	PC橋架設工	9-27

第9章 道路工

9-1 路体・路床

(1) 路体・路床工

「第2章土工 2-2 (2) 盛土・埋戻」による。

(2) 路床安定処理工

現位置での路上混合作業に適用する。

1) 数量算出項目

必要面積を区分ごとに算出する。

表9-1 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	安定処理材	散布量	改良深	数量	備考
路床安定処理工	○	○	○	m ²	

①安定処理材区分

安定処理材は、下表で区分する。

安定処理材
石灰系
セメント系

②散布量区分

安定処理材のm²当り散布量（ロス等を含む）を算定し、散布量ごとに区分する

③改良深区分

改良深（t）を算定し、下表で区分する。

改良深（cm）
0 < t ≤ 60
60 < t ≤ 100

9-2 舗装工

(1) 路盤工

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工を施工する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要面積を区分ごとに算出する。

表9-2 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	路盤材料	施工箇所	仕上り厚さ	単位	数量	備考
不陸整正工	○	×	○	m ²		(注)
路盤工	○	○	○	m ²		

(注) 補足材が必要な場合は、敷均し厚さを別途算出する。

①路盤材料区分

路盤材料の規格ごとに区分する。

②施工箇所区分

施工箇所は、下表で区分する。

項目	施工箇所
路盤工	車道
	歩道

③仕上り厚さ区分

仕上り厚さごとに区分する。

(2) アスファルト舗装工

アスファルト舗装工事を施工する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要面積又は延長を区分ごとに算出する。

表9-3 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	舗設材	施工場所	設計密度	仕上り厚さ	舗設幅	瀝青材散布	断面積	単位	数量	備考
一般道路		○	○	○	○	○	○	×	m ²		(注) 1
狭幅道路		○	○	○	○	×	○	×	m ²		(注) 2
場内舗装		○	×	○	○	○	○	×	m ²		
アスファルトカーブ		○	×	×	×	×	×	○	m		

(注) 1. 幅1.4m以上
2. 幅1.4m未満

①舗設材区分

舗設材の規格ごとに区分する。

②施工箇所区分

施工箇所は、下表で区分する。

項目	施工箇所
一般道路	歩道部
狭幅道路	車道及び路肩部

③設計密度区分

アスファルト混合物の設計密度ごとに区分する。

④仕上り厚さ区分

アスファルト混合物の仕上り厚さごとに区分する。

⑤舗設幅区分

舗設幅は、下表で区分する。

項目	施工幅 (b)
一般道路	$1.4 \leq b \leq 3.0$
場内舗装	$3.0 < b$

⑥瀝青材散布区分

瀝青材散布は、下表で区分する。

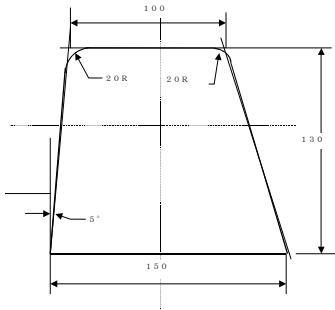
項目	瀝青材
一般道路	プライムコート
狭幅道路	タックコート
場内舗装	無

⑦断面積区分

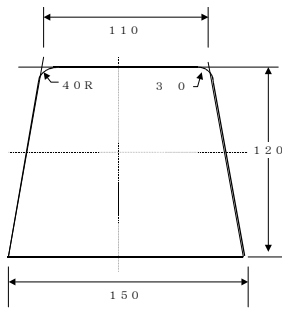
アスファルトカーブの断面積ごとに区分する。

参考

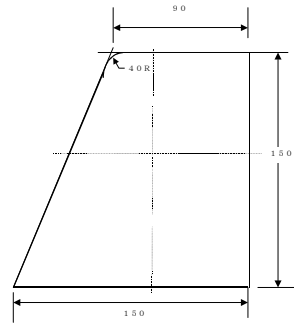
A 型



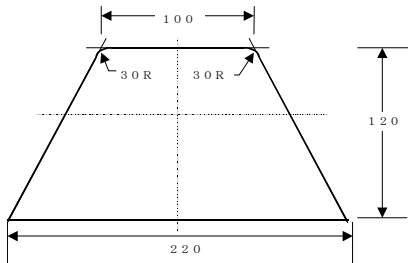
B 型



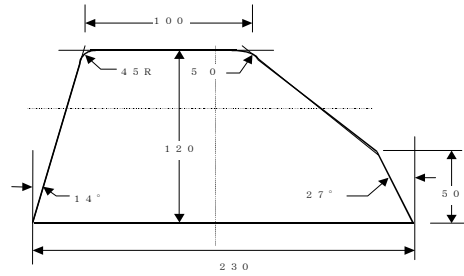
C 型



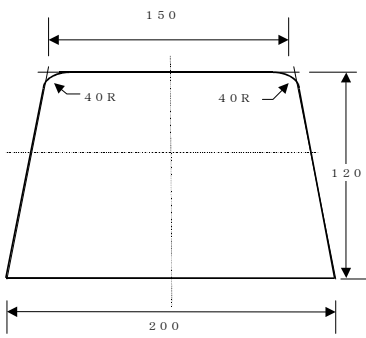
D 型



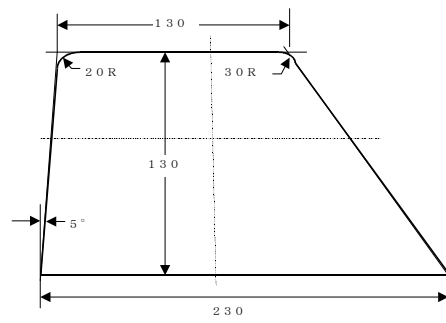
E 型



F 型



G 型



(3) コンクリート舗装工

コンクリートを用いた舗装工事に適用する。

1) 数量算出項目

必要面積を区分ごとに算出する。

表9-4 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	コンクリート	施工方法	仕上り 厚さ	型枠の 有無	単位	数量	備 考
舗設 (1層仕上げ)		○	×	○	×	m ²		(注) 1
舗設 (2層仕上げ)		○	○	○	×	m ²		(注) 2
舗設 (RCCP)		○	×	○	○	m ²		(注) 3

(注) 1. 型枠、目地板、鉄網、プライムコート、スリップバー、養生 (1層仕上げの場合) 路盤紙等は別途算出する。

2. 鉄網、補強鉄筋、縦目地、横目地、瀝青材等は別途算出する。

3. RCCP=ローラー転圧コンクリート舗装

①コンクリート区分

コンクリートの規格ごとに区分する。

②施工方法区分

施工方法は、機械舗設を標準とするが、施工量が少ない場合、交差点、すりつけ部等機械持込みが不適当な場合は、人力舗設とする。

項 目	施 工 方 法	
舗設 (2層仕上げ)	機械舗設	1車線
		2車線同時
	人力舗設	—

③仕上り厚さ区分

コンクリートの仕上り厚さごとに区分する。

④型枠の有無区分

型枠の有無について区分する。

(4) 砂利舗装工

碎石等を用いた敷均し作業をする場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要面積を区分ごとに算出する。

表9-5 数量算出項目区分一覧表

区分 項目	舗設材	舗設幅	舗設厚	不陸整正 の有無	舗装面仕上げ の有無	単位	数量	備 考
砂利舗装工	○	○	○	○	○	m ²		

①舗設材区分

舗設材の規格ごとに区分する。

②舗設幅区分

舗設幅は、下表で区分する。

舗 設 幅
3.0m 以上
2.5m 以上 3.0m 未満
2.0m 以上 2.5m 未満
2.0m 未満

③舗設厚区分

舗設厚ごとに区分する。

④不陸整正の有無区分

舗設対象ごとに、不陸整正の有無について区分する。

⑤舗装面仕上げの有無区分

舗設対象ごとに、舗装面仕上げの有無について区分する。

(5) グースアスファルト舗装工

グースアスファルトを用いた橋梁における鋼床版上の基層のアスファルトを施工する場合に適用する

1) 数量算出項目

必要面積を区分ごとに算出する。

表9-6 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	舗設材	仕上り厚さ	単位	数量	備考
グースアスファルト舗装工	○	○	m ²		(注)

(注) プレコート砕石及び目地材は別途算出する。

①舗設材区分

舗設材の規格ごとに区分する。

②仕上り厚さ区分

仕上り厚さごとに区分する。

9-3 落石防護工

(1) 落石防止網工

落石防止網を設置する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要箇所又は面積を区分ごとに算出する。

表9-7 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	金網	金網表面	支柱型式	アンカー	支柱高	支柱建込箇所	単位	数量	備考
支柱建込		×	×	○	○	○	○	箇所		(注)
アンカー設置		×	×	×	○	×	×	箇所		
金網+ロープ設置		○	○	×	×	×	×	m ²		
簡易ケーブルクレーン設置撤去		×	×	×	×	×	×	基		

(注) 支柱建込箇所は、埋込式ポケット式支柱の場合のみ区分する。

①金網区分

金網は、下表で区分する。

項目	金網
金網+ロープ設置	線径 2.6 mm
	線径 3.2 mm
	線径 4.0 mm
	線径 5.0 mm

②金網表面区分

金網表面は、下表で区分する。

項目	金網表面
金網+ロープ設置	亜鉛メッキ
	亜鉛メッキカラー
	厚メッキ
	厚メッキカラー
	合成樹脂

③支柱形式およびアンカー区分

支柱形式およびアンカーは、下表で区分する。

項 目	支 柱 形 式	ア ン カ ー
支柱建込 アンカー設置	埋込式ポケット式支柱	岩部用アンカー (D22 mm×長 500 mm岩盤用)
		組立アンカー (径 25 mm×長 1500 mm土中用)
	固定式ポケット式支柱	岩部用アンカー (D22 mm×長 1000 mm岩盤用)
		岩部用アンカー (D25 mm×長 1000 mm岩盤)
		岩部用アンカー (D29 mm×長 1000 mm岩盤)
		岩部用アンカー (D32 mm×長 1000 mm岩盤)
		羽付アンカー(径 25 mm×長 1500 mm土中用)
		高耐力アンカー(プレート羽付 アンカー有効長 1500 mm土中用)
		高耐力アンカー(プレート羽付 アンカー有効長 2000 mm土中用)
		高耐力アンカー(溝形鋼羽付 アンカー有効長 1500 mm土中用)
		高耐力アンカー(溝形鋼羽付 アンカー有効長 2000 mm土中用)

④支柱高区分

支柱の高さ別に区分する。

⑤支柱建込箇所区分

支柱建込箇所は、下表で区分する。

項 目	支 柱 建 込 箇 所
支柱建込	軟岩
	土砂

(2) 落石防護柵工

落石防護柵を設置又は撤去する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長又は本数を区分ごとに算出する。

表9-8 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	柵高	支柱	金網表面	施工	単位	数量	備考
金網+ロープ+支柱		○	×	×	×	m		(注)
支柱		○	○	×	○	本		
支柱(曲支柱)		○	○	×	○	本		
ロープ+金網(間隔保持材付)		○	×	○	○	m		
ロープ+金網(上弦材付)		○	×	○	○	m		
ステーロープ		×	×	×	×	本		

(注) 支柱高1.25m以下で、支柱間隔3mのみに適用する。

①柵高区分

柵の高さ別に区分する。

②支柱区分

支柱は、下表で区分する。

項目	種別	塗装
支柱	中間支柱	溶融亜鉛メッキ2種
		メッキ+焼付塗装
	端末支柱	溶融亜鉛メッキ2種
		メッキ+焼付塗装

③金網表面区分

金網表面は、下表で区分する。

項目	金網
ロープ+金網(間隔保持材付)	亜鉛メッキ
ロープ+金網(上弦材付)	厚メッキ

④施工区分

施工は、下表で区分する。

施工
据付
撤去

9-4 排水工

(1) L形側溝

路面排水用L形側溝を設置する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-9 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	製品規格	単位	数量	備考
L形側溝	○	m		

①製品規格区分

L形側溝の規格ごとに区分する。

(2) 暗渠排水工

暗渠排水管（硬質ポリ塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔無孔管で、管水路工事、水路工事及びほ場整備工事等を除く）を施工する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-10 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	管種	管径	フィルター材	単位	数量	備考
有孔管	○	○	○	m		(注)
無孔管	○	○	×	m		

(注) フィルター材の断面積は別途算出する。

①管種及び管径

管種及び管径は、下表で区分する。

管種	管径 (mm)
直管	50~150
	200~400
波状管及び網状管	50~150
	200~400
	450~600

②フィルター材

フィルター材の規格ごとに区分する。

(3) 橋梁排水管設置

鋼管、VP管による各種系統タイプ及び溝部の橋梁排水管を設置する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-11 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	管種	管径	コンクリートアンカーボルト規格	単位	数量	備考
橋梁排水管設置	○	○	×	m		
コンクリートアンカーボルト	×	×	○	本		

①管種区分

管種は、下表で区分する。

管 種
鋼管
硬質ポリ塩化ビニル管

②管径区分

管径ごとに区分する。

③コンクリートアンカーボルト規格区分

コンクリートアンカーボルトの規格ごとに区分する。

(4) 自由勾配側溝

自由勾配側溝を設置する場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-12 数量算出項目区分一覧表

項目	区分		基礎砕石 の有無	基礎 コンクリート	底部 コンクリート	単位	数量	備 考
	材料規格	製品 規格						
自由勾配側溝	○	○	○	○	○	m		(注) 1

(注) 1. 基礎砕石、基礎コンクリート、底部コンクリートの断面積、基面整正は別途算出する。

2. 基礎コンクリート打設に使用する型枠費用は、市場単価に含む。

① 料規格区分

上表に該当する項目について、区分する。

a. 製品質量

製品質量は、下表で区分する。

製品質量 (kg/個)
1000 kg以下
1000 kgを超え 2000 kg以下
2000 kgを超え 2900 kg以下

9-5 付帯施設工

(1) マンホール

蓋板（プレキャスト製、鋼製）を含む、プレキャストコンクリート製マンホールを据え付ける場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要基数を区分ごとに算出する。

表9-13 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	材料規格			基礎碎石の有無	敷材の有無	単位	数量	備考
		製品規格	質量	内径					
マンホール		○	○	○	○	○	基		(注)

(注) 質量とは、マンホールを構成するコンクリート二次製品及び蓋板（鉄筋コンクリート製、鋼製）の1基あたり合計質量である。

但し、人孔口環等が現場打ちの場合は、人孔口環及びマンホール蓋の質量は1基あたり質量から除くものとする。

①材料規格区分

a. 上表に該当する項目について、区分する。

質量および内径は、下表で区分する。

質量 (kg/基)	内径 (m)
2000 kg以下	1.0m未満
	1.0m以上 1.5m未満
2000 kgを超え 4000 kg以下	1.0m未満
	1.0m以上 1.5m未満

②基礎碎石の有無区分

基礎碎石の有無について区分する。

③敷材の有無区分

敷材の有無について区分する。

(2) 防雪柵

防雪柵の設置及び撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-14 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	製品種別	張立材	取付	支柱支持	柵高	施工	単位	数量	備考
防雪柵		○	○	○	○	○	○	m		

① 品種別、張立材、取付、支柱支持、柵高区分

張立材、取付、支柱支持、柵高は、下表で区分する。

製品種別	取付	張立材	支柱支持	柵高
吹溜式	仮設式	防雪板 又は、 防雪網	土中に支柱を打込む 又は、 土中にアンカーを 打込み固定する	3.5m以下
				3.5mを超え 6.0m以下
	固定式	防雪板	コンクリート基礎に 固定する	5.0m以下
吹払式	仮設式	防雪板	土中にアンカーを 打込み固定する	4.0m以下
	固定式	防雪板	コンクリート基礎に 固定する	4.0m以下

② 施工区分

施工は、下表で区分する。

施工
設置
撤去

(3) ガードケーブル

ガードケーブルの設置を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長または必要箇所を区分ごとに算出する。

表9-15 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	作業種別	製品種別	製品形式	塗装	単位	数量	備考
中間支柱+ケーブル		○	○	○	○	m		
末端支柱		○	○	○	○	箇所		

①作業、製品種別、製品形式区分

作業、製品種別、製品形式は、下表で区分する。

作業種別	製品種別	製品形式		
土中建込	路側用	塗装品Gc-A-6E		
		塗装品Gc-B-6E		
		塗装品Gc-C-6E		
		塗装品Gc-S-4E		
		塗装品Gc-A-6E		
		メッキ品Gc-B-6E		
		メッキ品Gc-C-6E		
		メッキ品Gc-S-4E		
	分離帯用	塗装品Gc-Am-6E		
		塗装品Gc-Bm-6E		
		メッキ品Gc-Am-6E		
		メッキ品Gc-Bm-6E		
		コンクリート建込	路側用	塗装品Gc-A-4B
				塗装品Gc-B-4B
塗装品Gc-C-4B				
塗装品Gc-S-2B				
メッキ品Gc-A-4B				
メッキ品Gc-B-4B				
メッキ品Gc-C-4B				
メッキ品Gc-S-2B				
分離帯用	塗装品Gc-Am-4B			
	塗装品Gc-Bm-4B			
	メッキ品Gc-Am-4B			
	メッキ品Gc-Bm-4B			

(4) ガードレール

ガードレールの設置又は撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-16 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	作業種別	製品形式	支柱	施工	充填材料	単位	数量	備考
ガードレール設置		○	○	○	○	×	m		
ガードレール撤去		○	○	×	×	×	m		
ガードレール(橋梁用)設置		○	○	×	×	○	m		
ガードレール(橋梁用)撤去		○	○	×	×	×	m		

①作業種別及び製品形式区分

作業種別及び製品形式は、下表で区分する。

項目	作業種別	製品形式
設置 撤去	土中建込	塗装品 B-4E
		塗装品 C-4E
		メッキ品 B-4E
	コンクリート建込	塗装品 B-2B
		塗装品 C-2B
		メッキ品 B-2B
	橋梁建込	Ck-2PHL
		C-2B-5
		C-2B-4
		C-2B

②支柱区分

支柱は、下表で区分する。

項目	支柱
設置	曲げ支柱
	直支柱

③施工区分

施工規模は、下表で区分する。

項目	施工
設置	直線部
	曲線部(半径 30m 以下)

④充填材料区分

充填材料は、下表で区分する。

項目	充填材料
設置	無収縮モルタル以外
	無収縮モルタル

(5) ガードパイプ

ガードパイプの設置又は撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-16 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	作業種別	製品形式	支柱高	支柱	施工	単位	数量	備考
設置	○	○	○	○	○	m		
撤去	○	○	×	×	×	m		

①作業種別及び製品形式区分

作業種別及び製品形式は、下表で区分する。

項目	作業種別	製品形式
設置 撤去	土中建込	塗装品 Gp-Bp-2E
		塗装品 Gp-Cp-2E
		メッキ品 Gp-Bp-2E
	コンクリート建込	塗装品 Gp-Bp-2B
		塗装品 Gp-Cp-2B
		メッキ品 Gp-Bp-2B
パイプのみ	Bp・Cp種	

②支柱高区分

支柱高は、下表で区分する。

項目	作業種別	支柱高
設置	土中建込	標準支柱
	コンクリート建込	標準支柱より長い

③支柱区分

支柱は、下表で区分する。

項目	作業種別	支柱
設置	土中建込	曲げ支柱
	コンクリート建込	直支柱

④施工区分

施工は、下表で区分する。

項目	施工
設置	直線部
	曲線部(半径30m以下)

(6) 横断・転落防止柵

横断・転落防止柵の設置及び撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長または必要箇所を区分ごとに算出する。

表9-17 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	作業種別	支柱間隔	製品形式	単位	数量	備考
設置	○	○	○	m		
撤去	○	○	○	m		
根巻きコンクリート設置	○	×	×	箇所		

①作業種別、支柱間隔、製品形式区分

作業種別、支柱間隔、製品形式は、下表で区分する。

項目	作業種別	支柱間隔	製品形式
設置 撤去	土中建込	1.0m	ビーム式
		1.5m	ビーム式
		2.0m	ビーム式・パネル式
		3.0m	ビーム式・パネル式
	コンクリート建込	1.0m	ビーム式
		1.5m	ビーム式
		2.0m	ビーム式・パネル式
		3.0m	ビーム式・パネル式
			門型
	プレキャストコンクリートブロック建込	1.0m	ビーム式
		1.5m	ビーム式
		2.0m	ビーム式・パネル式
		3.0m	ビーム式・パネル式
			門型
	アンカボルト固定	1.0m	ビーム式
		1.5m	ビーム式
2.0m		ビーム式・パネル式	
3.0m		ビーム式・パネル式	

項目	作業種別
根巻きコンクリート設置	土中建込用

(7) 標識板

標識板の設置及び撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要基数または必要体積を区分ごとに算出する。

表9-18 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	製品種別	製品形式	障害物の有無	支柱	景観色塗装	裏面塗装	アンカーボルト使用	取付金具	単位	数量	備考
標識柱・基礎設置		○	○	×	○	○	×	×	×	基		
標識柱設置		○	○	×	×	×	×	×	×	基		
標識板既製品設置		×	×	×	×	×	○	×	×	基		
添架式取付金具設置		○	○	×	×	×	×	×	○	基		
標識基礎設置		○	○	○	×	×	×	○	×	m ³		
標識柱・基礎撤去		○	○	×	×	×	×	×	×	基		
標識柱撤去		○	○	×	×	×	×	×	×	基		
標識板既製品撤去		×	×	×	×	×	×	×	×	基		
添架式標識板撤去		○	○	×	×	×	×	×	×	基		
標識基礎撤去		○	○	×	×	×	×	×	×	m ³		

①製品種別及び形式区分

製品種別及び形式は、下表で区分する。

項目	製品種別	製品形式	
標識柱・基礎設置、撤去	単柱式 復柱式	メッキ品	φ 60.5
			φ 76.3
			φ 89.1
			φ 101.6
		下地亜鉛メッキ + 静電粉体塗装	φ 60.5
			φ 76.3
			φ 89.1
		静電粉体塗装	φ 60.5
	φ 76.3		
φ 89.1			
標識柱設置、撤去	片持式	400 kg未満	
		400 kg以上	
	門形式	スパン 10m 未満	
		スパン 10m～20m スパン 20m 以上	
添架式取付金具設置 添架式標識板撤去	信号アーム部		
	照明柱既設標識柱		
	歩道橋		
標識基礎設置、撤去	片持式 門形式	4.0 m ³ 未満	
		4.0～6.0 m ³	
		6.0 m ³ 以上	

②障害物の有無区分

障害物の有無は、下表により区分する。

項 目	障害物の有無
標識基礎設置	有
	無

③支柱区分

支柱は、下表で区分する。

項 目	支 柱
標識柱・基礎設置	曲げ支柱
	直支柱

④景観色塗装区分

景観色塗装は、下表で区分する。

項 目	景 観 色 塗 装
標識柱・基礎設置	する
	しない

⑤裏面塗装区分

裏面塗装は、下表で区分し、1基当りの塗装面積を算出する。

項 目	裏 面 塗 装
標識板既製品設置	する
	しない

⑥アンカーボルト使用区分

アンカーボルト使用は、下表で区分し、1㎡当りの質量を算出する。

項 目	アンカーボルト使用
標識基礎設置	する
	しない

⑦取付金具区分

取付金具は、下表で区分し、1基当りの追加段数を算出する。

項 目	取付金具
添架式取付金具設置	する
	しない

(8) 区画線

区画線の設置及び消去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-19 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	供用	線	幅	塗布厚	排水性 舗装	線色	対象物	単位	数量	備考
溶融式(手動)		○	○	○	○	○	○	×	m		(注) 1, 2
溶剤型 ^{ペイント} 式 (車載式)		○	○	○	×	×	○	×	m		(注) 1
水性型 ^{ペイント} 式 (車載式)		○	○	○	×	×	○	×	m		(注) 1
消去(削り取り式)		×	×	×	×	×	×	×	m		(注) 3, 4
消去(ウォータージェット式)		×	×	×	×	×	×	○	m		(注) 3, 4

- (注) 1. 破線、ゼブラについては、実際の塗布延長を算出する。
 2. 矢印・記号・文字については、重複施工する部分を平均20%と見込み、実際の塗布延長に加えた「所要材料換算長」を線幅15cmに換算し算出する。

$$\text{所要材料換算長 (m)} = \text{設計数量 (塗布面積 (m}^2\text{))} \div 0.15 \times 1.20 \text{ (重複施工ロス分)}$$

 3. 消去面積を15cm換算し算出する。
 4. 排水性舗装の上に施工された区画線、道路標示の消去はウォータージェット式とする。

①供用、線、幅区分

供用、線、幅は、下表で区分する。

項目	供用区分	線区分	幅区分	
溶融式(手動)	供用区間	実線	15 cm	
			20 cm	
			30 cm	
		破線	15 cm	
			20 cm	
			30 cm	
			45 cm	
	ゼブラ	15 cm		
		20 cm		
		30 cm		
		45 cm		
			矢印・記号・文字	15 cm換算
	未供用区間	実線	15 cm	
			20 cm	
30 cm				
破線		15 cm		
		20 cm		
		30 cm		
		45 cm		

項目	供用区分	線区分	幅区分
溶融式(手動)	未供用区間	ゼブラ	15 cm
			20 cm
			30 cm
		45 cm	
		矢印・記号・文字	15 cm換算
溶剤型 ペイント式 (車載式)	供用区間	実線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
		破線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
	未供用区間	実線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
		破線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
水性型 ペイント式 (車載式)	供用区間	実線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
		破線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
	未供用区間	実線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm
		破線	加熱式 15 cm
			常温式 15 cm

②塗布厚区分

塗布厚は、下表で区分する。

項目	塗布厚
溶融式(手動)	1.5 mm
	1.0 mm

③排水性舗装区分

排水性舗装に施工する場合は、下表で区分する。

項目	排水性舗装
溶融式(手動)	施工する
	施工しない

④線色区分

区画線の色ごとに区分する。

⑤対象物区分

区画線消去でウォータージェット式により施工する場合は、下表で区分する。

項目	対象物区分
区画線消去(ウォータージェット式)	溶融式
	ペイント式

(9) 境界ブロック

境界ブロックの設置・撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長を区分ごとに算出する。

表9-20 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	境界ブロック規格			単位	数量	備考
		製品規格	製品長	製品質量			
設置		○	○	○	m		
撤去 (撤去・処分)		○	○	○	m		
撤去 (再利用)		○	○	○	m		

①材料規格区分

設置及び撤去対象ごとに、上表に該当する項目について区分する。

a. 境界ブロックの製品長及び製品質量は、下表で区分する。

項目	製品長(mm/個)	製品質量(kg/個)
設置	600 mm以下	50 kg未満
		50 kg以上 100 kg未満
	600 mmを超え 1000 mm以下	50 kg以上 150 kg未満
	1000 mmを超え 2000 mm以下	150 kg以上 550 kg未満
撤去 (撤去・処分)	800 mm以下	105 kg未満
撤去 (再利用)	800 mm以下	105 kg未満

(10) 視線誘導標

視線誘導標の設置及び撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要本数を区分ごとに算出する。

表9-21 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	製品形式	設置	反射体	規格	防塵型	さや管	単位	数量	備考
設置		○	○	○	○	○	○	本		
撤去		×	○	×	×	×	×	本		

①設置、反射体、規格区分

設置、反射体、規格は、下表で区分する。

項目	製品型式	設置	反射体	規格	
設置	標準型	土中建込み用	両面反射 φ100 以下	支柱径 φ34	
				支柱径 φ60.5	
				支柱径 φ89	
			両面反射 φ300	支柱径 φ60.5	
				片面反射 φ100 以下	支柱径 φ34
					支柱径 φ60.5
			支柱径 φ89	片面反射 φ300	支柱径 φ60.5
					支柱径 φ60.5
			コンクリート建込み用 (穿孔含む)	両面反射 φ100 以下	支柱径 φ34
					支柱径 φ60.5
					支柱径 φ89
				両面反射 φ300	支柱径 φ60.5
		片面反射 φ100 以下			支柱径 φ34
					支柱径 φ60.5
		支柱径 φ89		片面反射 φ300	支柱径 φ60.5
					支柱径 φ60.5
		コンクリート建込み用 (穿孔含まない)		両面反射 φ100 以下	支柱径 φ34
					支柱径 φ60.5
					支柱径 φ89
				両面反射 φ300	支柱径 φ60.5
			片面反射 φ100 以下		支柱径 φ34
					支柱径 φ60.5
			支柱径 φ89	片面反射 φ300	支柱径 φ60.5
					支柱径 φ60.5
防護柵取付用	両面反射 φ100 以下		バンド式		
			ボルト式		
			かぶせ式		
	両面反射 φ300		バンド式		
		片面反射 φ100 以下	バンド式		
			ボルト式		
	かぶせ式	片面反射 φ300	バンド式		
			バンド式		

項目	製品型式	設置	反射体	規格	
設置	標準型	構造物取付用	両面反射 φ100 以下	側壁用 ベースプレート式	
			両面反射 φ300	ベースプレート式	
			片面反射 φ100 以下	側壁用 ベースプレート式	
			片面反射 φ300	ベースプレート式	
	スノーポール併用型	土中建込み用	両面反射 φ100 以下	反射体数1個	
			片面反射 φ100 以下	反射体数2個 反射体数1個	
		コンクリート建込み用 (穿孔含む)	両面反射 φ100 以下	反射体数1個	
			片面反射 φ100 以下	反射体数2個 反射体数1個	
		コンクリート建込み用 (穿孔含まない)	両面反射 φ100 以下	反射体数1個	
			片面反射 φ100 以下	反射体数2個 反射体数1個	
		撤去	—	土中建込み用	—
				コンクリート建込み用	—
防護柵取付用	—				
構造物取付用	—				

②防塵型区分

防塵型は、下表で区分する。

項目	反射体	防塵型
設置	両面反射 φ100 以下	両面
		片面
	両面反射 φ300	両面
		片面
	片面反射 φ100 以下	片面
	片面反射 φ300	片面

③さや管区分

さや管を設置する場合は、下表で区分する。

項目	さや管
設置	設置する
	設置しない

9-6 PC橋架設工

(1) PC橋架設工

プレストレストコンクリート橋桁[A又はB活荷重桁] (JIS A 5373) の架設及び横組を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要数量を区分ごとに算出する。

表9-22 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	材料規格					落橋防止装置	桁	足場	防護工	単位	数量	備考
		支承	桁	鉄筋	コンクリート	ケーブル							
支承工	○	×	×	×	×	×	×	×	×	m、個		(注) 1	
架設工	×	○	×	×	×	×	×	×	×	本			
鉄筋工	×	×	○	×	×	×	×	×	×	t			
コンクリート工	×	×	×	○	×	×	○	×	×	m ³			
PC工	×	×	×	×	○	×	×	×	×	m			
緊張工	×	×	×	×	×	×	×	×	×	ケーブル			
落橋防止工	×	×	×	×	×	○	×	×	×	組			
足場工	×	×	×	×	×	×	×	○	○	m ² 、m		(注) 2	
防護工	×	×	×	×	×	×	×	×	○	m ²			
登栈橋工	×	×	×	×	×	×	×	×	×	箇所			

(注) 1. 簡易ゴム支承はm、ゴム支承は個とする。

2. 桁下足場はm²、側部足場はmとする。

①材料規格区分

上表に該当する項目について、区分する。

②桁区分

桁は、下表で区分する。

項目	桁
コンクリート工	T桁
	スラブ桁

③足場及び防護工区分

足場及び防護工は、下表で区分する。

項目	足場	防護工
足場工	桁下足場	両側朝顔
		片側朝顔
防護工	側部足場	-

